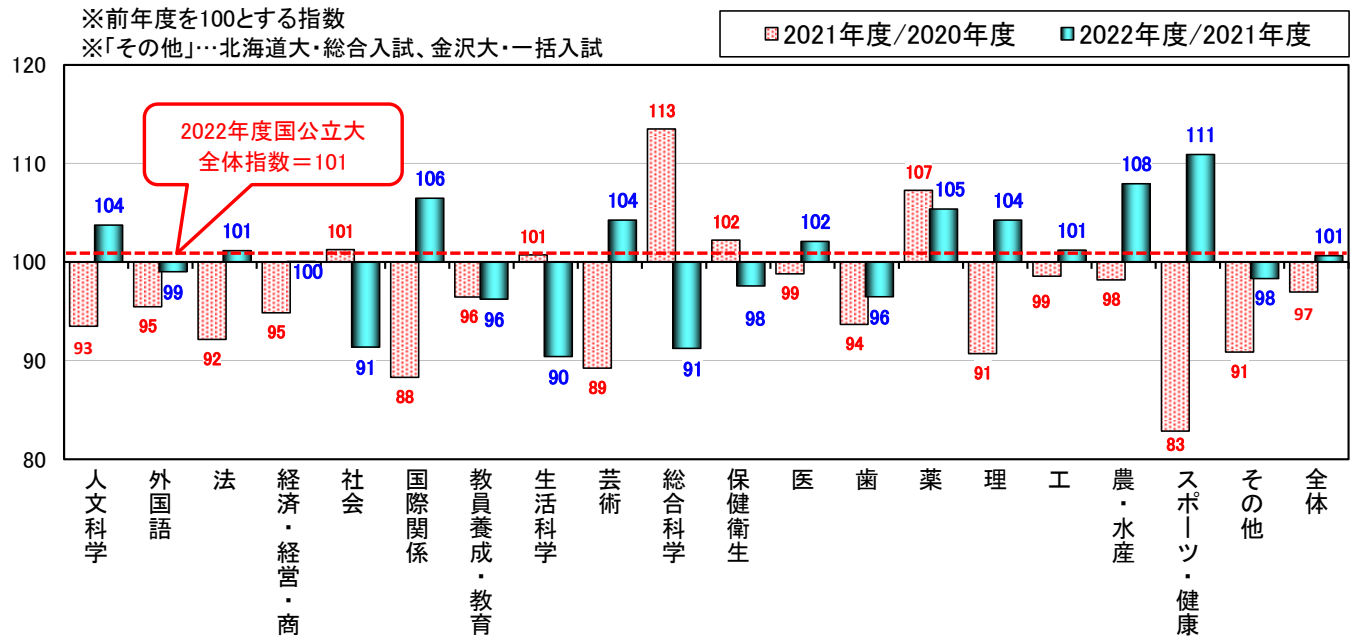
※本文内の（　）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎系統別志願状況

□スポーツ・健康系、農・水産系は増加、生活科学、社会、総合科学は減少



スポーツ・健康(111)、農・水産(108)は増加、国際関係(106)、薬(105)、人文科学(104)、芸術(104)、理(104)はやや増加でした。一方で、生活科学(90)、社会(91)、総合科学(91)が減少、教員養成・教育(96)、歯(96)はやや減少でした。これら以外の７系統は前年度並でした。

文系の系統では、人文科学(104)は２年連続減少した反動もあり、やや増加となりました。コロナ禍により留学などが不安視され２年連続減少した外国語(99)は微減で志願者は戻っていませんが、国際関係(106)はもともと募集人員が少ないこともあって、反動増の影響が大きく、やや増加しました。また、社会(91)は公立大での減少が目立ちました。法(101)、経済・経営・商(100)は前年度並でした。

理系では、近年低人気だった農・水産(108)はやや増加しました。理(104)は前年度共通テストの成績のみで選抜を行い大きく志願者が減少した横浜国立大・理工のこの系統に含まれる学科の志願者数合計(197)が倍増近い増加だった影響が大きく、やや増加しました。工(101)は実学志向の高まりもあり、微増でした。

メディカル系は、経済環境が悪化する中で、職業直結型の系統であることから人気が高まりました。薬(105)は、コロナ禍におけるワクチンや治療薬開発の話題が多く報道されたことから関心が高まり、やや増加しました。医(102)は近年入学定員の増加で間口が広がり、既卒生が減少したことによる減少が続いていましたが、系統への人気の高まりから他系統への志望変更が少なく微増でした。一方で、歯(96)は歯科医師過剰による将来への不安があり、やや減少しました。保健衛生(98)は比較的共通テストの目標ラインが低い地方公立大での設置が多く、共通テストの平均点ダウンの影響から微減となりました。

文理いずれからも志願者がいる系統では、東京オリンピック・パラリンピックが無事に開催されたことで、この系統への関心が戻ってきたスポーツ・健康(111)は増加しました。芸術(104)は映像関係が含まれていることでやや増加しました。一方で、総合科学(91)は減少で、この系統に含まれる近年人気の高まった情報系の難易度アップを敬遠する動きが見られました。また、教育を取り巻く厳しい環境から教員養成・教育(96)は、２年連続やや減少となりました。